

東京学芸大学環境教育研究センター 木俣の学部、大学院修士課程から連合大学院博士課程までのシラバス事例

科目区分：共通科目/総合学芸領域（CA） / 環境系

科目名	学校園の利用と計画 Utilization and Planning of School Garden	単位：2単位
対象	全学年（受講制限はしないが、安全にかつ十分に実技を学ぶため30名程度がありがたい。）	
ねらいと目標	学校園を有効に利用するための基礎知識と技能を習得することを目標とする。学校園は教科・総合学習活動にとってなくてはならない施設であり、生物多様性の保全を身近な環境で確保・修復するビオトープとしても期待できる。	
内容	環境教育施設の彩色園（教材植物園）、大学キャンパス、附属小金井小学校を野外観察・体験実習のフィールドとして、学校園の多面的意義、その活用事例を講義し、学校園を作るための基礎的な植物栽培と計画ワークショップを行う。	
テキスト	特に指定しないが、資料を配布する参考文献：講義中に紹介する	
成績評価	講義・実技後に毎回15分ほどの時間を取り、A4用紙に授業についての意見・感想・質問などを受講者に書いていただき、最終的に学校園のデザイン図を提出していただく。これによって受講者への成績評価と講義に対する受講者による評価を併せ行う。	
授業スケジュール	天候などにより変更することがある	

- 1 学校園について、授業計画についての相談、彩色園の観察
- 2 実習畑の整地、農器具の解説
- 3 植物種子の播種
- 4 施肥、畝立てなど畑の準備
- 5 苗の鉢上げ
- 6 附属小金井小学校の学校園の観察
- 7 苗の定植、園芸用資材の解説
- 8 総合学習の事例研究1：学校園の活用、ビオトープ化
- 9 通学圏エコミュージアムについて
- 10 身近な生物多様性・ビオトープについて
- 11 ワークショップ1：教科の視点から学校園をデザインする
- 12 ワークショップ2：総合学習の視点から学校園をデザインする
- 13 ワークショップ3：ビオトープ化の視点から学校園をデザインする
- 14 総合学習の事例研究2：野外料理会の運営
- 15 まとめの議論

科目区分：専門科目 / 環境教育課程 環境教育専攻

科目+28:33名	ビオトープと生物資源保全実習 Conservation Practice of Biotope and Genetic Resources	単位：2単位
対象	環境教育専攻2年生。特に関心のある人は受講してもよい。	
ねらいと目標	生物多様性の保全技術として、学校園・植物園造り、そのビオトープ化、植物遺伝子資源の収集・保存、標本作製・管理、評価・データベース作成などを講義・実習し、環境教育学の視点から国土・環境保全について考察する。	

内容	環境教育施設の彩色園を生物多様性保全のための教材植物園として長期計画的に維持管理、ビオトープ化する実習、東京近郊山村において遺伝子資源収集にともなう民族植物学的調査実習、種子・さく葉標本などの保存・評価・管理実習を行う。これらの直接経験を統合して、ワークショップにより環境教育学の視点から国土・環境保全、山村振興について現地で論議する。
テキスト	特に指定しないが、資料を配布する
参考文献	講義中に紹介する
成績評価	講義・実習後に結果、意見・質問などを実習ノートに毎回書いていただく。これによって受講者への成績評価と講義に対する受講者による評価を併せ行う。 授業スケジュール：相談して決めるが、天候などにより変更することがある
	<ol style="list-style-type: none"> 1 植物園について、授業計画についての相談、彩色園の観察 2 農器具・園芸用資材について、実習畑の整地、植物種子の播種 3 遺伝子資源種子貯蔵庫とさく葉標本庫の紹介、さく葉などの標本作製と管理実習 4 遺伝資源種子の系統保存、パスポートデータ管理実習 <p>ビオトープ造り</p> <ol style="list-style-type: none"> 5 苗の鉢上げ、施肥、畝立てなど畑の準備、苗の定植、植物園管理実習 6 小川のビオトープ造り 7 遺伝子資源の活用、農耕文化基本複合の多様性について、伝統食文化の実習 <p>8/9 都立神代植物園、深大寺および野川公園周辺の観察（1日集中実習、6月を予定） 山梨県小菅村の民族植物学的調査・遺伝子資源収集実習、植物採集、ワークショップなど（1泊2日集中実習、7月を予定）</p>

科目区分：専門科目 / 環境教育課程 環境教育専攻

科目名	民族植物学 Ethnobotany 単位：2単位
対象	主に環境教育専攻。地域研究、文化財科学などに勧める。
ねらいと目標	人間と植物の関係史における伝統的な知恵の体系を探究することによって、生物多様性と環境文化を保全するための現代的方法を考察する。
内容	環境教育施設の彩色園（教材植物園）とここで生育している植物教材を用いて、直接観察をともなう講義を進める。人間と植物の関係史を学び、伝統的な植物に関する知恵の体系の存在様態を考察する。
テキスト	Ethnobotanyは購入しなくてよい。資料を配布する
参考文献	講義中に紹介する
成績評価	講義・実技後に毎回15分ほどの時間を取り、A4用紙に授業についての意見・感想・質問などを受講者を書いていただく。これによって受講者への成績評価と講義に対する受講者による評価も併せ行う。
内容	授業スケジュール

- 1 民族植物学とは何か、歴史と現代的意義、研究の動向
- 2 民族植物学の研究方法、文化人類学的な調査方法
- 3 人間と植物の関係史、農耕文化の起源と伝播、民族の意義
- 4 民族植物学で必要とする植物学の基礎 1 分類学の視点
- 5 民族植物学で必要とする植物学の基礎 2 遺伝学の視点
- 6 民族植物学で必要とする植物学の基礎 3 生態学の視点
- 7 共生の進化 1 野生植物の利用から半栽培へ
- 8 共生の進化 2 栽培植物の起源
- 9 共生の進化 3 雑草の起源
- 10 伝統的な知恵の体系 1 民俗分類
- 11 伝統的な知恵の体系 2 多様な関係性
- 12 環境文化の多様性と生物多様性保全
- 13 ワシントン条約、生物多様性条約、アジェンダ21について
- 14 環境教育学の視点から農山村エコミュージアムについて
- 15 まとめの議論

19年度大学院（修士課程）講義シラバス

科目名 **環境教育特論**（環境学特論） 2単位

ねらいと目標 環境とは何か、環境を学ぶとは何かをともに議論して、環境教育学の内容と位置づけなどを考察し、理論を深めたい。

内容 基本的な概念を提案した後に、講義の方法は初日に受講者と相談のうえ決めるが、現代GP多摩川エコモーション関連授業として、エコミュージアム日本村と山村の環境を課題にすることを希望する。本年は中央・北アジアの環境問題を課題として取り上げるようになった。また、美術科ギャラリーでの雑穀展に協力して、展示資料の解説作りを行った。さらに、山梨県小菅村での特別展に向けて中央・北アジアの環境問題について展示資料を製作した。

テキスト 使用しない。参考文献として担当者が書いてきた環境教育学、環境学習関連の文章の別刷等を適宜配布する。

参考文献 木俣・藤村編（2005）『持続可能な社会のための環境学習 ― 知恵の輪を探して』培風館。木俣・石川訳（2004）コットン『民族植物学』八坂書房。

成績評価方法 レポートと展示資料

授業スケジュール (展開計画) 雑穀展の中で、中央アジアの環境についての展示を製作する。1. 環境学序論、講義方針の提案。2. 環境を学ぶとは何か。3. 環境教育学の位置づけ。4. エコミュージアム日本村および諸1区物と人々の博物館づくり。5. 中央・北アジアの調査1993年の報告。6. 中央・北アジアの環境問題。7. 特別展の企画。8. 展示品の整理。9. 展示品の整理。10. 展示解説パネル作り。11. 解説パネル作り。12. 展示方法の検討。13. 作品の展示作業。14. 作品の展示。15. まとめ

授業のキーワード 自然誌、文化誌、世界観、山村、エコミュージアム

その他 任意参加の補講は山梨県小菅村の「植物と人々の博物館」などでワークショップを行う。

科目名 環境教育方法論 (環境民族植物学特論) 2単位

ねらいと目標 植物と人類の共生への関係史を学び、伝統的な植物智・生態智を学習することがこれからの環境保全、環境創造、あるいは環境学、環境教育学にどのように有効であるかを議論する。現場で、将来を見据えた環境学習活動の実情を見る。

内容 基本的な概念を提案した後に、講義の方法は初日に受講者と相談のうえで決めるが、現代GP多摩川エコモーション関連授業として、エコミュージアム日本村「植物と人々の博物館」づくりをめぐって、小菅村村民への聴き取り調査、民具の整理、雑穀の加工調理などの総合学習を行う。また、シンポジウム「いのちをつなぐ138」の運営を実習として行う。

テキスト 使用しない。文献は配布する。

参考文献 C.M. コットン(2002)『民族植物学—原理と応用』(木俣・石川訳)八坂書房、V.D. Nazarea(1998) Cultural Memory and Biodiversity, The University of Arizona Pressなど。

成績評価方法 レポートと展示作品

授業スケジュール (展開計画) 1. 序論、講義方針の確認。2. 環境民族植物学の概説。3. 調査研究方法。4. 伝統的知識体系と環境学習。5. 野外実習の計画の検討。6～7. 現代GPシンポジウムの運営(民族植物学にかかわる分科会を担当)。8～15. .小菅村で2泊3日程度のエコミュージアム野外実習。伝統的畑作物の加工調整、調理実技と聴き取り調査法の実践。民具の整理法、データベース作り、展示方法の実技。自炊するので、経費は余りかからない。

授業のキーワード 伝統的知識体系、科学的知識体系、環境創造、ホームガーデン、エコミュージアム、山村、環境学習の展開戦略、地域社会

連合大学院博士課程 教育構造論講座

科目名 **環境教育学研究**